



ふぞくの風

子どもと共に成長を

副校長 益山 富誉

後期前半が終わります。子どもたちは、充実した50日間を過ごすことができました。本校教育に御協力・御理解を賜り、心から感謝申し上げます。

後期前半は、修学旅行や自然教室、集団宿泊学習等の宿泊的行事を経験して、共助・扶助の行動ができる子どもが増えました。また、授業力アップ講座やソニー子ども科学教育全国大会では、学びを作っていく子どもたちの姿に、参観された先生方が感動し、学んでいる状況を見ることができました。一つ一つの行事や授業で子どもたちの日々成長する姿を見ることで、さすが附属の子であると感動しました。私たちが日々研鑽して授業に臨むとそれに応えていくことができる子どもたちです。

子どもにとって一つ一つのことが貴重な経験となります。子どもの成長に寄与することができるように、これからも私たち自身が学び、子どもに支援できるようにしていきたいと考えます。

冬休みには、家族で過ごす機会も増えると考えます。親子で語ったり、活動したりして、有意義な冬休みをお過ごしください。

● 全国に発信、附属小の教育 ～子ども科学教育研究全国大会～

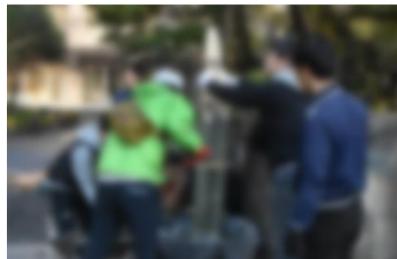
本校は、ソニー教育財団が主催する、科学教育実践論文の募集に毎年応募し、昨年度、最優秀校に選ばれました。これを記念して、11月29日（金）に、「子ども科学教育研究全国大会」を開催しました。当日は、研究発表や授業公開をし、全国各地から200名を超える先生方が来校しました。「なぜ」「どうして」という問題意識を連続、発展させながら課題の解決を図る子どもたちの姿を通して、附属小の教育を全国に発信するよい機会となりました。



【協力して課題の解決を図る子どもの様子と、その様子を熱心に参観する全国各地からの参加者の様子】

● 季節と伝統を感じる贈り物 ～ちからの会による門松作り～

12月14日（土）に、ちからの会世話役の方々と職員による門松づくりが行われました。1時間程度で立派な門松が出来上がり、正門に設置されました。新年を祝う日本の伝統を感じさせる贈り物に、子どもたちは驚きや喜びの表情を浮かべていました。ちからの会の方々には、校内の環境美化や大運動会当日の見回り活動とともに、この門松づくりにおいても学校の様々な教育活動を支えていただいていることに感謝して、新年を迎えます。



【附属小のみんなに新年を祝う日本の伝統を味わってほしいという思いで門松作りをしてくださる、ちからの会の方々】

新たな価値を創造する資質・能力を高めるための「ひと・もの・こと」とのかかわりに関する取組

● 郷土の先人の生き方から学ぶ ～6年生のぞみタイム出前授業～

6年生のぞみタイムでは、これまでに、附属中学校での体験入学や、教育実習生とのかかわりを通して、夢や目標の達成に向けて努力することの大切さや、具体的な努力の方法について学んできました。また、11月27日には、法文学部の学生が研究してきた、法律や経済などの様々な分野の話聞く活動を通して、世の中には様々な職業や学問があることを学びました。

そして、12月11日には、維新ふるさと館の福田賢治前館長を招き、郷土の偉人について学習する活動を行いました。福田館長は、西郷隆盛や大久保利通、島津斉彬といった子どもたちがよく知っている人物だけでなく、平田靱負（宝暦治水の責任者）など、あまりなじみがない人物についても取り上げ、その業績について解説されました。子どもたちは、それぞれの人物の業績への理解を通して、そのような人物を多く輩出した鹿児島への愛情を深めることができました。また、それだけでなく、人物の業績の基盤となったものの見方や考え方の価値にも気付くことができました。後期後半には、これまでの学習を振り返り、中学校、そしてその先の自分の生き方について見通す活動を設定しながら、6年間の小学校でのキャリア教育の総まとめをしていきます。

【学習後の子どもの感想】

「上に立つ者は、下の者の言葉に耳を傾けるべきだ。」という平田靱負の言葉は、自分の意見だけでなく、他者の意見も取り入れようという意味だと思う。私は将来出版社に勤めたい。そこでも生かせるよう、視野を広くもつことを心掛けて過ごしていきたいと思います。（女児）



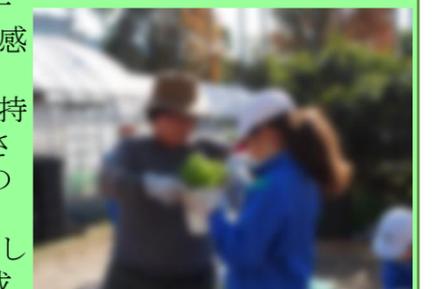
【郷土の偉人の業績から自己の生き方のヒントを得ようと、熱心に話を聞く様子】

● 感謝の気持ちを伝える行動 ～4年生によるボランティア活動～

4年生の子どもたちが、教育学部実習地で、花苗の植え付け作業のボランティア活動を行いました。この活動は、鹿児島島の食について追究する4年生のぞみタイムの活動において、さつまいもや桜島大根の栽培活動を支援してくださった実習地の方々への感謝の気持ちを伝えるために子どもたちが企画したものです。

「お礼の気持ちを伝えるために、何かわたしたちにできるお手伝いはありませんか。」と申し出た子どもたちに対して、実習地の方々が希望されたのは、花鉢への苗の植付け作業でした。数が多く、実習地の方々だけで作業をするのは大変だったそうです。

実習地の方々とともに作業する中で子どもたちは、「自分たちが学級園などに植えている苗も、自分たちの見えないところで実習地の方々が一つ一つ心をこめて作ってくださっているのだな。」という新たな感謝の気持ちをもつことができました。また、「これまで以上に、学校の花も大切に育てていこう。」といった、感謝の気持ちを伝える行動の仕方について考えることができました。さらに、今回植えた苗が、卒業式の会場に飾るためのものであることを聞き、「6年生のために丁寧に植え付けをしよう。」と、感謝の気持ちを伝える対象を広げることもできました。後期後半には、他の学年においても、一年間の自分の成長を振り返り、成長を支えてくださった方々への感謝の気持ちを高めさせる活動を位置付けていきます。



【実習地の方と共に、心を込めて花の苗付けをする様子】

【1月の主な行事】

冬季休業（～7日）	20日（月）新1年入学児童選考抽選（一般）※児童は休み
8日（水）後期後半開始、月曜校時 図書返却期間（～10日）	21+日（火）標準学力検査（～31日、1～5年） 29日（水）PTA役員選考委員会 PTA総務部会・理事会
10日（金）図書返却完了日	
13日（月）新1年入学児童選考諸検査	
14日（火）図書通常貸出開始	